

三重県国民平和大行進ニュース 第2号

2014年6月9日(月)

発行:2014年原水爆禁止世界大会三重県実行委員会

◎落合郁夫理事長からのレポート

7日、今年もみえ労連の宣伝カーをお借りし、津を出発したのは午後3時。辻井さん、荒木さん、鈴木さん、落合の一行です。伊勢道から紀州道へと、快適です。尾鷲からは42号線で矢の川峠を越えました。この頃、雨をみましたがたいしたことなく、6時には熊野入り。獅子岩を眺めながら夕食を摂り、さらに南下。紀宝の宿に着いたときは長い日も暮れようとしていました。

8日朝、紀宝町役場前には激励に駆けつけてくれた人たちも含め40人余が参集。梅雨の晴れ間、少し暑そうです。8時30分、紀南原水協の原章三さんの司会で行進横断幕を和歌山から引き継ぎ、出発式を開きました。

落合からは、被爆の実相を伝えることも、原爆許すな運動も、占領軍に抑えられていたなかから日本原水協を結成し、運動を発展させてきた歴史をふり返り、いまや核兵器の全廃が世界の主流になってきた情勢を報告。そして、夏の世界大会、来年に迫ったNPT再検討会議の成功をめざそうと、行進や署名の意義を訴えました。

全国通し行進者の五十嵐成臣さんは、和歌山からスタートした行進を引き継ぎながら、8月4日広島までの行進を核兵器なくせ、平和を守れと訴えて歩き続ける決意を述べました。日曜日にもかかわらず、紀宝町の西田健町長、向井健雅議長が町職員とともに駆けつけ、ともに激励の挨拶を送ってくれました。また賛同署名、協賛金も托されました。

行進団は鞆殿町内や阿田和などで沿道チラシを各戸に配り、カンパを訴えながら御浜町役場に到着。ここは座礁した漁船に取り付けられていた第五福竜丸のエンジンが引き揚げられた地で、役場の敷地内には記念碑も建てられています。

古川町長、宇土平議長(代理)の出迎えを受け、町長は「核兵器をなくすことは世界の願い」と行進団を励ましてくれました。両氏からの署名・協賛金のほか、町職員組合からも協賛金。ここでは冷茶の接待も受けています。司会は笹ノ内さん。

さらに北上し、有馬地区でも団は15分間の停止。宣伝カーが「これから署名と募金のお願いに伺います」と集落をぐるぐる回ると、行進者のみなさんが沿道チラシを配りながら訪問するというやり方です。正午には予定通り熊野市役所に到着し、昼食休憩。暑いけれど、少し風もあってまあまあの行進日和です。

市役所前では河上敬二市長のメッセージを受け(代読)、市長・議長の協賛金とともに副市長・教育長の賛同署名が托されました。司会は山田爽さん。ここでは「コープみえ」の岡本一朗さんが、コープ和歌山から受け継ぎ、コープ奈良に引き渡す三重県生協連の意気込みを語りました。市内、新鹿で宣伝、チラシ配布、カンパ訴えのあと、紀南最後の地、遊木で行動し、カンパを集約してひとまず解散。

尾鷲入りするとき、新しくできた熊野道を新鹿からいきなり矢の浜に出たため、30分も早く到着。5時、矢の浜で紀南から紀北に引き渡しました。参加者は21名。その後、尾鷲市内の行進に。私は晩のJRで帰津しましたが、児童公園で終結集会を開きました。

〈下記は特筆したいこと〉

1. 全国通し行進者の五十嵐さんが県内3人の通し行進者とともに先頭に立ち、参加者を励まし続けていただいたこと。
2. 紀南の自治体の首長・議長らが激励の挨拶、アピール署名への賛同、協賛金を寄せられたこと。御浜町職からの協賛金が寄せられたこと。
3. 沿道チラシ配布・訪問で署名17筆(本日ファクスでさらに2筆)、募金30,528円が集まったこと。
4. 「コープみえ」の組合員が「なくそう核兵器」の黄色いタスキをかけて6人が参加し、うち5人が全日歩き通されたこと。
5. 出発式に「紀南新報社」の大井記者が取材に来てくれたこと。

※昨日は行進テープが切れたため、マイクを握りっぱなしでたいへん疲れました。

※〈原さんからの報告〉参加者=コープみえ6名・紀南原水協25名、御浜原水協10名、県4名、全国1名。募金=70,528円(自治体40,000円)。署名=17筆。自治体賛同署名=8名。沿道チラシ=200枚。紀南のみなさん、おつかれさまでした! 8日は紀北です。